

---

# ただいま俺様玉子と逃走中！

碧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ただいま俺様玉子と逃走中！

### 【Nコード】

N6236S

### 【作者名】

碧

### 【あらすじ】

リーナは童顔と低い身長とそれに反して育ってしまった胸がコンプレックスな男嫌いで男前な性格の少女。

いつものように祭りに誘ってくる男共を蹴散らして森にきた彼女が出会ったのは巨大玉子を背負った狼だった。

注意 ものすごく亀更新になります。

## 狼と玉子とあたし

年に一度の花祭り。春の訪れを感謝する祭は未婚の男女にとっては恋を囁く一大事行事。

祭が近づくにつれて未婚の若者は意中の娘をどう誘うか頭を悩ませ、娘はオシャレに余念がない。

そんなうふふあははな浮ついた空気の中、それに乗れない変わり者というのはどこにでも、いるもので。

「リ・ナ！よ、よければ花祭り、おれと……」

「ウザイ」

「ハアハア、こ、この特製ドレスを着て是非僕と花祭りに……！」

「きもい」

「リ・ナ！そのとても19だと信じられない童顔低身長にたわわに実った美乳に顔をうずめさせ……げはっ！」

「うざいキモいシネ」

変態発言をかましながらこちら………というか胸？………に鼻息粗く突進してきた男（23歳 独身）に見事な回し蹴りを喰らわせ黙らせた少女は蔑みの視線のまま冷たくそう言い放った。

地面に倒れた男を踏ん付けて立ち去る姿は可憐な外見を裏切るほど

に男らしさに溢れていた。

「相変わらず外見のかわいらしさと内面の男気の差がばげしい子」

一部始終を見ていたらしい友人が楽しげに肩を震わせながら隣に並んだ。

リ・ナはチラリと横目で友人を見ると黙って歩くスピードを彼女に合わせた。

追い払われなかったことに安堵しつつ友人は隣を歩くり・ナを観察する

幼さを大きく残すがそれでも美しい美貌に白い雪のような肌。唇は紅を塗らずとも赤く、清楚な雰囲気を漂わせているくせに身体は出るところ出て引つ込むところはしっかり引つ込んでいた。

男の庇護欲、劣情などのつばを押しまくる外見の少女の中身は誰よりも男気溢れる性格なのだから世の中面白い。

「でも、せつかくの花祭りのお誘い、いいの？断って？」

「改造ミニミニフリフリのメイド服を強制する男も人の胸に顔を埋めようとする変態もお断り。というか男がお断り」

外見の美しさと立派な胸のせいで過去、何度も何度も何度も！痴漢や誘拐、猥褻未遂の被害に遭ったり・ナはすっかり男嫌いな娘に成長してしまっていた。

「……………そんなこと言って……………結婚できないわよ?」

「男の嫁になるぐらいならあたしが嫁を貰う」

それぐらいの甲斐性があるとハッキリきっぱり言い切ったり・ナに友人は顔を引き攣らせた。

なまじ、そこらの男より頼りになるので冗談に聞こえないのが恐ろしい。

「結局、今年もあんたは不参加なのね」

友人の言葉にリ・ナは静かに頷いた。

「ウザイ、キモい、消えろ」

いつものように祭りに誘っているのか変態なのかわからない男ども（こんな男ばかりだなこの里）を蹴散らしたり・ナは切れかけの薬草を採取するために森にいた。

「……………」

無言で目の前の物体を観察する。

視線のすぐ先には傷だらけの大きな狼。元は白かったであろう毛並みは血と泥に汚れ、足元は覚束ない。

「……………」

リ・ナが凝視しているのは狼の背中。

人間の赤ん坊を背負うように狼の背中に鎮座しているのはひと抱えもあるであろう……。

「……………玉子」

であつた。

狼と玉子。……………狼と玉子なら力関係は狼の方が上。狼は肉食だとばかり思っていたけど……………。

「狼って、玉子も食べるんだ……………」

「ちがいます！」

グワツ！と目を見開き、リ・ナの呟きを聞き咎めた狼が振り向くなり全否定した。

血まみれで玉子を背負う狼と薬草の入った籠を背負うリ・ナはしばし無言で見つめ合う。

第三者から見たらかなり訳の解らない光景に違いない。

「……………」

様々なものを内包した沈黙の中で鳥の囀りが暢気に森に響く。

しばしの沈黙の後。

「なんで迷いの森に籠背負った人族の娘さんがいるんですか――  
――！！！！！！！！！！」

「血まみれで巨大玉子を背負った狼が喋った――！！！！！！！！！！  
――」

そんな大絶叫に森の鳥が一斉に飛び立つのは後少し。

## 狼と玉子とあたし（後書き）

すみません！すみません！連載が増えました！どうしてもどうしても我慢できずに一話目を投稿です。他の話を優先するので更新は他の話よりさらに遅くなります。

それでもよろしければお付き合いくださいませ。

・・・しかし一話目だけだとタイトルに偽りがありすぎる・・・。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6236s/>

---

ただいま俺様玉子と逃走中！

2011年4月21日12時44分発行